

厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
「地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究」
分担研究報告書(令和2-3年度)

(奈良県および長野県 KDB を用いた分析)

研究代表者 今村 知明(奈良県立医科大学)
研究分担者 野田 龍也(奈良県立医科大学)
西岡 祐一(奈良県立医科大学)
赤羽 学(国立保健医療科学院長)
研究協力者 中西 康裕(奈良県立医科大学/国立保健医療科学院)
次橋 幸男(奈良県立医科大学)

研究要旨

2025年の地域医療構想の実現に向けて、各都道府県では、各構想区域における地域医療構想の実現に向けた病床機能の分化・連携の取組など、地域全体での質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の確保を図る取組を進めるため、公立・公的・民間医療機関における再編統合を含む対応方針の策定や検証・見直しを行っている。本研究では、奈良県ならびに長野県のKDBデータベースを用いて、国が分析していない回復期・慢性期医療に係る診療行為の提供状況について分析を行った。この結果を用いて、地域医療構想調整会議等での議論の活性化を今後図っていく。

A. 研究目的

地域医療構想実現のため、各都道府県では公立・公的病院の再編・統合等対策を進めている。公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証の議論を進めるにあたり、国が分析していない回復期・慢性期医療に係る診療行為の提供状況をKDBを用いて分析し、地域医療構想調整会議等での議論の活性化を図る。

B. 研究方法

①データベースの構築

これまでに構築済みの奈良県KDB(2013年度~2018年度)に2019年度、2020年度分データを加え、1患者化、死亡フラグの付与を実施する。

②回復期・慢性期医療に係る診療行為の提供状況

病床機能報告の報告様式2で求めている「入院患者に提供する医療の内容」のうち、国の検討会で回復期・慢性期に関する診療行為として区分されたものをもとに以下について集計を行う。

- (ア)地域包括ケア病棟入院料の算定状況(回復期分析)
- (イ)急性期医療・在宅医療の後方病床の確保状況(回復期分析)
- (ウ)その他急性期後支援・在宅復帰支援に係る取組の状況(回復期分析)
- (エ)回復期リハ病棟入院料の算定状況(回復期分析)
- (オ)疾患別リハビリテーションの提供状況(回復期分析)
- (カ)その他リハビリテーションの提供状況(回復期分析)
- (キ)医療区分ごとの患者の受入状況(慢性期分

析)

(ク)急性期医療・在宅医療の後方病床の確保状況(慢性期分析)

各医療機関の診療行為の提供量を把握する観点から、算定回数で集計し、一部の集計については1患者化による集計を実施する。

C. 研究結果

①データベース構築

データベースに奈良県より提供された2019年度のKDBデータを追加した。2019年度のレセプト件数は10,918,695件、台帳ID件数は517,016件、1患者化後のID件数は506,470件であった。2013年からの累計では、レセプト件数は72,244,846件、台帳ID件数は913,776件、1患者化後のID件数は791,378件であった。

②回復期・慢性期医療に係る診療行為の提供状況

2014年～2018年の長野県のKDBを使用して集計を実施した。

(ア)地域包括ケア病棟入院料の算定状況(回復期分析)

地域包括ケア病棟入院料1～4および地域包括ケア入院医療管理料1～2、4の診療行為に関する総算定回数は1,683,975件、総患者数は1,435人であった。また、医療機関所在地別および保険者所在地別の集計を実施した。

(イ)急性期医療・在宅医療の後方病床の確保状況(回復期分析)

急性期患者・在宅患者支援病床初期加算(地ケア病棟)、救急・在宅等支援病床初期加算(地域一般、特定一般)の算定回数を、年度ごと、医療機関ごとに集計した。総算定回数は842,809件、総患者数は68,265人であった。また、医療機関所在地

別および保険者所在地別の集計を実施した。

(ウ)その他急性期後支援・在宅復帰支援に係る取組の状況(回復期分析)

入退院支援加算および地域連携診療計画加算、退院時共同指導料、介護支援等連携指導料、退院時リハビリテーション指導料、退院前訪問指導料の算定回数を、年度ごと、医療機関ごとに集計した。総算定回数は378,330件、総患者数は333,009人であった。また、医療機関所在地別および保険者所在地別の集計を実施した。

(エ)回復期リハ病棟入院料の算定状況(回復期分析)

回復期リハビリテーション病棟入院料の算定回数を、年度ごと、医療機関ごとに集計した。総算定回数は378,330件、総患者数は333,009人であった。また、医療機関所在地別および保険者所在地別の集計を実施した。

(オ)疾患別リハビリテーションの提供状況(回復期分析)

心大血管疾患リハビリテーション料、脳血管疾患等リハビリテーション料、廃用症候群リハビリテーション料、運動器リハビリテーション料、呼吸器リハビリテーション料、障害児(者)リハビリテーション料、がん患者リハビリテーション料、認知症患者リハビリテーション料の算定回数を、年度ごと、医療機関ごとに集計した。総算定回数は25,041,965件、総患者数は367,790人であった。また、医療機関所在地別および保険者所在地別の集計を実施した。

(カ)その他リハビリテーションの提供状況(回復期分析)

初期加算、早期リハビリテーション加算、摂食機能療法、入院時訪問指導加算、リハビリテーション充実加算、休日リハビリテーション提供体制加算の算定回数を、年度

ごと、医療機関ごとに集計した。総算定回数は 13,173,965 件、総患者数は 596,519 人であった。また、医療機関所在地別および保険者所在地別の集計を実施した。

(キ)医療区分ごとの患者の受入状況(慢性期分析)

療養病棟入院基本料等の算定回数を、年度ごと、医療区分ごと、医療機関ごとに集計した。総算定回数は 3,618,758 件、総患者数は 52,751 人であった。また、医療機関所在地別および保険者所在地別の集計を実施した。

(ク)急性期医療・在宅医療の後方病床の確保状況(慢性期分析)

急性期患者・在宅患者支援療養病床初期加算(療養病棟)、救急・在宅等支援療養病床初期加算の算定回数を、年度ごと、医療機関ごとに集計した。総算定回数は 210,227 件、総患者数は 16,448 人であった。また、医療機関所在地別および保険者所在地別の集計を実施した。

D. 考察

本研究により、奈良県ならびに長野県の二次医療圏ごとの回復期および慢性期の状況について、公立・公的を含む医療機関等同士で役割の重複・競合がないか等の確認につながる結果を得た。本研究が再編統合に向けた議論の一助となることが示唆された。

E. 結論

今回集計した結果をもとに、今後地域医療構想調整会議等での議論の活性化が期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

- 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明. レセプト電算用マスターと MEDIS の標準病名マスターにおける指定難病病名の収載状況について. 医療情報学 論文集. 2020 Nov;40(Suppl.): 589-591.
- 西岡祐一、野田龍也、今村知明. 奈良県における後期高齢者医療費と保険料水準の理論推計. 厚生の指標. 2020 Dec;67(15): 26-30.
- Yukio Tsugihashi, Manabu Akahane, Yasuhiro Nakanishi, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Yuichi Nishioka, Tatsuya Noda, Shuichiro Hayashi, Shiori Furihata, Tsuneyuki Higashino, Tomoaki Imamura. Long-term prognosis of enteral feeding and parenteral nutrition in a population aged 75 years and older: A population-based cohort study. BMC Geriatrics. 2021 Jan; 21: 80
- Yasuhiro Nakanishi, Yukio Tsugihashi, Manabu Akahane, Tatsuya Noda, Yuichi Nishioka, Tomoya Myojin, Shinichiro Kubo, Tsuneyuki Higashino, Naoko Okuda, Jean-Marie Robine, Tomoaki Imamura. Comparison of Japanese Centenarians' and Noncentenarians' Medical Expenditures in the Last Year of Life. JAMA Network Open. 2021 Nov; 4(11): e2131884.
- 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、明神大也、野田龍也、今村知明. レセプト電算用マスターと MEDIS 標準病名マスターにおける指定難病名の収載状況. 医療情報学. 2021 Nov;41(4): 163-168.
- 今村知明. 新型コロナウイルスを受けての地域医療の課題と感染症医療提供体制構築私案. 特集“感染症医療”の抜本改革. 月刊 保険診療. 2021 Nov;76(11): 38-41.

- 学会発表

1. 2020年08月04日～2020年08月06日
(WEB、東京都) 第62回日本老年医学会学術集会 百寿者の人口動態と大規模レセプトデータを用いた百寿者研究の今後 中西康裕、次橋幸男、赤羽学、野田龍也、明神大也、久保慎一郎、西岡祐一、東野恒之、今村知明
2. 2020年10月20日～2020年10月22日
(WEB京都) 第79回日本公衆衛生学会総会 KDBを用いた奈良県における後期高齢者医療費と保険料水準の理論推計 今村知明、西岡祐一、野田龍也。
3. 2020年10月20日～2020年10月22日
(WEB京都) 第79回日本公衆衛生学会総会 医療・介護レセプトデータを用いた人工栄養開始後の療養場所に関する追跡調査 次橋幸男、赤羽学、明神大也、中西康裕、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明。
4. 2020年10月20日～2020年10月22日
(WEB京都) 第79回日本公衆衛生学会総会 透析患者における骨折発症リスク：KDBを用いた検討 菅野沙帆、久保慎一郎、赤羽学、次橋幸男、今村知明。
5. 2020年10月20日～2020年10月22日
(WEB京都) 第79回日本公衆衛生学会総会 糖尿病/非糖尿病での死亡時年齢と健康寿命の比較 新居田泰広、西岡祐一、次橋幸男、久保慎一郎、明神大也、野田龍也、今村知明。
6. 2020年10月20日～2020年10月22日
(WEB京都) 第79回日本公衆衛生学会総会 大規模レセプトデータを用いた百寿者及び非百寿者の死亡前医療費の比較 中西康裕、次橋幸男、赤羽学、野田龍也、明神大也、久保慎一郎、西岡祐一、今村知明。
7. 2020年11月18日～2020年11月22日
(静岡県、アクトシティ浜松/WEB) 第40回医療情報学連合大会(第21回日本医療情報学会学術大会) レセプト電算用マスターとMEDISの標準病名マスターにおける指定難病病名の収載状況について 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明。
8. 2020年11月20日(神戸) 日本リハビリテーション医学会秋季学術発表会。次橋幸男、赤羽学。医療・介護レセプトデータを用いた疾病発症が健康寿命に与える影響の比較。
9. 2021年04月22日～2021年04月24日
(WEB) 第94回日本内分泌学会学術集会 レセプトビッグデータを用いた糖尿病診断アルゴリズムの構築 西岡祐一、野田龍也、久保慎一郎、明神大也、中島拓紀、毛利貴子、栗田博仁、岡田定規、樽松由佳子、今村知明、高橋裕。
10. 2021年05月20日～2021年05月22日
(WEB) 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 『データベース医学』が切り拓く新しい糖尿病学：大規模レセプトデータベースを用いた臨床疫学研究から見えること 西岡祐一、岡田定規、明神大也、久保慎一郎、竹下沙希、菅野沙帆、中西康裕、次橋幸男、降旗志おり、東野恒之、金岡幸嗣朗、池菜美香、新居田泰大、玉城由子、小泉実幸、紙谷史夏、中島拓紀、毛利貴子、栗田博仁、樽松由佳子、赤井靖宏、斎藤能彦、石井均、野田龍也、高橋裕、今村知明。
11. 2021年05月20日～2021年05月22日
(WEB) 第64回日本糖尿病学会年次学術集会 医療保険・介護保険連結ビッグデータ解析によって浮き彫りになる高齢2型糖尿病患者治療の実態と課題 新居田泰大、西岡祐一、中島拓紀、毛利貴子、栗田博仁、岡田定規、樽松由佳子、久保慎一郎、明神大也、野田龍也、金岡幸嗣朗、斎藤能彦、石井均、今村知明、高橋裕。
12. 2021年05月20日～2021年05月22日

(WEB) 第 64 回日本糖尿病学会年次学術集会 健康診断で HbA1c 高値指摘後の医療機関未受診は早期死亡率上昇と関連する：レセプトビッグデータを用いた観察研究 西岡祐一、野田龍也、久保慎一郎、明神大也、玉城由子、中島拓紀、毛利貴子、栗田博仁、樽松由佳子、岡田定規、金岡幸嗣朗、斎藤能彦、石井均、今村知明、高橋裕。

13. 2021 年 06 月 10 日～2021 年 06 月 12 日
(鳥取県、米子コンベンションセンター /WEB) 第 25 回日本医療情報学会春季学術大会 レセプト電算用マスターと MEDIS の標準病名マスターにおける指定難病病名の収載状況について 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明。
14. 2021 年 11 月 18 日～2021 年 11 月 21 日
(愛知県、名古屋国際会議場/WEB) 第 41 回医療情報学連合大会 (第 22 回日本医療情報学会学術大会) レセプト情報における病名・病名開始日を用いた名寄せロジックの開発 竹下沙希、西岡祐一、久保慎一郎、明神大也、野田龍也、今村知明。
15. 2021 年 12 月 21 日～2021 年 12 月 23 日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第 80 回日本公衆衛生学会総会 奈良県の KDB 7 年間データを用いた時系列分析と医療内容の変化 今村知明、西岡祐一、野田龍也。
16. 2021 年 12 月 21 日～2021 年 12 月 23 日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第 80 回日本公衆衛生学会総会 医療・介護保険レセプトデータを用いた要介護状態の契機となった入院主病名及び手術名の分析 次橋幸男、赤羽学、中西康裕、明神大也、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明。
17. 2021 年 12 月 21 日～2021 年 12 月 23 日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊

藤国際学術センター) 第 80 回日本公衆衛生学会総会 医療・介護連結解析からわかる高齢 2 型糖尿病患者治療の実態と課題 新居田 泰大、西岡 祐一、明神 大也、久保 慎一郎、次橋 幸男、野田 龍也、今村 知明。

18. 2021 年 12 月 21 日～2021 年 12 月 23 日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第 80 回日本公衆衛生学会総会 透析患者における骨折発症の標準化罹患比の算出：KDB を用いた検討 菅野沙帆、久保慎一郎、西岡祐一、野田龍也、今村知明。
19. 2021 年 12 月 21 日～2021 年 12 月 23 日
(東京都、京王プラザホテル 東京大学伊藤国際学術センター) 第 80 回日本公衆衛生学会総会 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) による透析導入リスクについて 竹下沙希、西岡祐一、明神大也、久保慎一郎、野田龍也、今村知明。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし